

オンライン講演会ではありますが、学生達への想いは変わりません。

「技術士を知ろう！ in 北見工業大学」

1. はじめに

「技術者のミライ研究委員会」(ミライ研)にて運営担当している「技術士を知ろう！」の第5弾です。

令和2年度最後は、昨年度から継続実施している北見工業大学とオンラインでの実施となりました。

今回も青年技術士交流委員会(青技交)の連携・協力を得て実施しています。

2. 実施概要と当日の進行

(1)開催概要

開催日時：R3.1.14(木) 13:00～14:30

講義内容：技術士資格の説明、技術士とは？

技術士(補)の仕事内容と役割(講演2編)

社会環境工学の仕事

対象者：北見工業大学 総勢58名の学生

・社会インフラ工学コース 3年生

・環境防災工学コース 3年生

・社会環境工学専攻 修士1年生

参加幹事：小澤、木本、千葉(記)(ミライ研3名)、
仁義(青技交1名)

(2)当日の進行

北見工業大学では、新型コロナウイルスの感染症対策としてオンライン授業が実施されています。今回はそのシステム(Cisco Webex Events)を利用して頂きました。

オンラインの特徴を活かし、学生達は自宅からの参加、中村先生は北見工大よりの参加、我々参加幹事メンバーは、さっぽろ創世スクエアの会議室からの参加となりました。さっぽろ創世スクエアの会場では、参加人数より倍以上広い会議室を利用し、入室時の検温・手指アルコール消毒、マスクの着用等の感染症対策を実施しての開催としました。

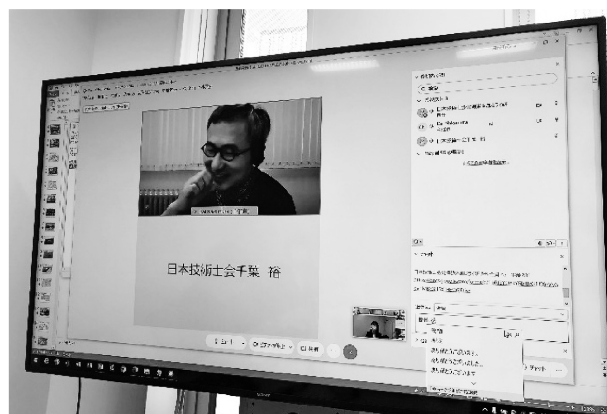


写真-1 オンライン講演会メイン画面の状況



写真-2 幹事メンバー

3. 技術士資格の説明、制度概要等

司会進行を務めるのは、毎度おなじみミライ研の木本幹事長です。オンライン状況下でも、いつもと変わらぬ“さばきで”学生達の興味をそそります。

続いて登場するのが、我々が小澤代表です。

プライベートが充実しているせいか、いつもとは異なる柔らかな口調で、学生達を技術士の世界に誘っていきます。

技術士資格の説明、技術士の役割、資格を持つことのメリット、社会人になってからの仕事をする上での重要性等の説明を行いました。

4. 技術士(補)の仕事内容と役割

(1) 技術士の仕事(千葉技術士)

具体的な仕事内容ですが、まずは(株)北海道水工コンサルタンツに所属する筆者より、河川計画に関する仕事について紹介しました。

河川計画とは、治水・利水・環境を総合的に捉え、河川の将来のあるべき姿を想像することが重要であることを、具体例を用いて説明しました。

また資格を取得することで、自身のキャリアアップに変化が起こった経験などについて、裏話も交えながらの講演となりました。



写真-3 学生の反応が気になる千葉技術士(筆者)

(2) 技術士補の仕事(仁義技術士補)

続いて清水建設(株)に所属する仁義技術士補から、自身の担当してきたトンネル現場での仕事と土木系の技術者を目指したきっかけ等を紹介しました。

スケールの大きい仕事で専門的な話になりがちのところ、親しみやすいキャラクターや動画等も駆使しつつ、解説等を交えながら説明を行っていました。

また、女性技術者としての働き方の紹介も併せて、これから進路を決めることになる後輩達に土木業界の魅力が存分に伝わったものと思います。



写真-4 OGこそその説得力で語る仁義技術士補

5. 社会環境工学の仕事

講演の最後は(株)ドーコンに所属する木本幹事長より、土木や建築の業界全般を対象に、先の二人の講演で紹介しきれなかった様々な仕事を、写真やイラスト等で紹介しました。

北海道内での事例等を用いて様々な仕事がある事を知ってもらい、学生達が自分の将来を考える機会にして欲しいと用意したものです。

まさに進路を決める段階にいる学生達にとっては、今後の進路等を考える良い機会になったようです。

6. 質疑応答

学生からの感想には「業務における信頼などにも影響することを知り、技術士の資格を取りたいという気持ちが強くなりました。」「講演を聞いて技術士を目指したいと思いました。」等の技術士取得の動機となるようなキーワードが多くありました。

アンケートでは、42人が「名前だけは知っていた」「以前から、名前も内容も知っていた」だったのに対し、42人中40人が「将来技術士を取得したい」と回答してくれていました。同アンケートでの今回講演の「わかりやすさ」「満足度」は5段階評価でともに4.5、4.7と学生に高評価であったことも一因だったのでは、と考えています。

7. まとめ

対面式の講演会時には、各プレゼン終了後には学生の皆さんから各プレゼンターに対しての質問用紙を回収し、そのうち何問かを抽出して回答するのですが、オンラインではそれができません。

そこで今回は、Google フォームのアンケートを活用して質疑応答を受け付けました。その結果、学生からの質疑内容はすぐに確認出来るほか、講演会後のアンケートも Google Sheets を併用することで、即座に集計結果が算出されるなど、オンライン講演会を実施したからこそ新たな発見もありました。

最後になりましたが、今回のオンライン講演会は、北見工業大学 地球環境工学科の中村先生の多大なるご支援やご協力があって実施することができました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。